

I 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

2025年は、日本が連合国に降伏した1945年から80年を過ぎた。一方、日本で終戦の日とされる8月15日は、朝鮮では「光がもどる」「失った主権を取り戻した」ことを意味する「光復」と呼ばれる。日本の敗戦によって長年の日本による植民地支配から朝鮮は解放された。しかし、「北朝鮮の苦難の歴史は疑いなく、

2025年は、日本が連合国に降伏した1945年から80年を過ぎた。一方、日本で終戦の日とされる8月15日は、朝鮮では「光がもどる」「失った主権を取り戻した」ことを意味する「光復」と呼ばれる。日本の敗戦によって長年の日本による植民地支配から朝鮮は解放された。しかし、「北朝鮮の苦難の歴史は疑いなく、

1950年6月25日、北朝鮮が武力での南北統一をめざして韓国に侵襲し、朝鮮戦争がはじまった。東西対立の冷戦の最前線として、朝鮮半島が戦場となったのである。当初は、北朝鮮が優勢であったが、アメリカを中心とする国連軍が仁川上陸作戦に成功し、戦況を逆転させた。国連軍が中国国境に迫ると、中国軍が義勇軍として参戦したことによって、ふたたび国軍は38度線付近で対峙することとなり、膠着状態に陥った。1953年に（あ）で休戦協定が結ばれ、朝鮮半島の分断が固定化され、現在に至るまで戦争状態は終結していない。

休戦後、韓国は戦争による貧窮で食料不足に陥り、その後の経済復興も遅くはなかった。李承晩大統領は、反共を国是とし、自身の権力を強化して独裁体制を築く。しかし、1980年の不正選挙で全国にデモが拡大して混乱した。韓国では、これを「四月学生革命」と呼ぶ。

その後一時的に民主的な政権が成立するものの、軍人の朴正熙がクーデタによって政権を掌握した。朴正熙は大統領となり、「漢江の奇跡」と呼ばれる経済成長を成し遂げ、1979年に暗殺されるまで独裁体制を維持した。1980年代も全斗煥ら軍部による独裁が続く。民衆を弾圧する動きは続いた。しかし、1987年に政府は民主化運動の高まりを受けて「民主化宣言」を発表し、現在まで続く韓国の民主主義体制がスタートした。

一方の北朝鮮では、首相の金正日が工業化によって戦争からの復興を進めた。同時に反対派を弾圧することで独裁体制を築き、1972年には憲法を改正して国家主席となった。その絶大な権力は、金正日の子孫に受けつがれた。現在、北朝鮮をめぐる軍事的緊張、人権問題、国際的な孤立などが東アジアの政治課題として残されている。

設問1 下線部aに同じ。この機関が設置されていた期間の出来事として明白な誤りを含む文章を、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 日本は朝鮮総督府を京城に設置して、当初は強権的な武断政治を行った。
- ② 朝鮮総督府の初代総督となった伊藤博文は、ハルビンで安重根に暗殺された。
- ③ 三一独立運動後、朝鮮総督府は朝鮮人の親属・集會活動の統制を緩和するなどの政策を行った。
- ④ 日中戦争が始まると、戦争への動員のための「親日改名」などの皇民化政策が進められた。

設問2 下線部bに同じ。次のA～Dの出来事を含むものから新しいものへ時代順に並べたとき、適切な順序のもの。次の①～④の中から一つ選びなさい。

- A 直接選挙制で憲政選挙団に選出された。
- B 金大中大統領が北朝鮮に融和的な大韓政を推進した。
- C 国連連合に北朝鮮とともに加盟した。
- D 光州で民主化運動が発生したが、軍部によって弾圧された。

- ① C → B → A → D
- ② A → C → D → B
- ③ D → A → C → B
- ④ C → D → B → A

設問3 下線部cは、1972年に正式に平壌を首府とした。この平壌に王都をおいた王朝を、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 高句麗
- ② 百濟
- ③ 新羅
- ④ 高麗

設問4 下線部dに関して述べた以下の文のうち、明白な誤りを含むものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① アメリカ軍が朝鮮半島に派遣されるにあわせて、日本では警備予備隊が設置された。
- ② 北朝鮮は韓国首領のソウルを陥落させ、朝鮮半島東南海岸の釜山に迫った。
- ③ 日本は国連軍向けの軍需物資などの寄贈によって戦後復興を成し遂げた。
- ④ 国連安全保障理事会は、全常任理事国の一致で北朝鮮の行動を侵略とみなした。

設問5 下線部eに同じ。古代から近世までの中国と朝鮮の関係についての説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 漢の武帝は、南冥朝鮮を滅ぼして安東都護府を設置した。
- ② 日本の侵襲を受け入れた新羅は、白村江で唐と百濟の連合軍に勝利した。
- ③ 高麗は、北宋だけではなく遼や金にも朝貢したことがあった。
- ④ 明の朝貢国となったことに反発した朝鮮では、自らこそ中国文化の継承者とする『小中華』意識が育まれた。

設問6 空欄（あ）に入る地名として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 開口店
- ② ジュネーブ
- ③ ハノイ
- ④ 咸興市

設問7 下線部fの人物はかつて満洲国軍に所属していた。満洲国に関する説明として、明白な誤りを含むものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 偽満洲事件の調査のために国際連盟はリットン調査団を派遣した。
- ② 関東軍が専横を暴発するために満洲国を建国させた。
- ③ 国際連盟は満洲国を承認しなかったため、日本は国際連盟脱退を通告した。
- ④ 満洲国では、漢・満洲・蒙古・朝鮮・日本民族の協同がスローガンとしてかけられた。

設問8 下線部gに同じ。世界の民主化を求める出来事を含むものから新しいものへ時代順に並べたとき、適切な順序のもの。次の①～④の中から一つ選びなさい。

- A ハンガリーで民主化とソ連からの離脱を求める大衆運動が起こったが、ソ連の軍事介入で弾圧された。
- B アンコン・ニューサーのもとメキシコで民主化が実現したが、クーデタでふたたび軍政となった。
- C チェコスロヴァキアで民主化を求める市民運動が起こり、共産党第一書記のドブレネクが自由化を推進した。
- D 胡耀邦の死をきっかけとして、中国で学生や知識人が天安門広場に集まり民主化を要求した。

- ① A → D → B → C
- ② C → D → A → B
- ③ D → B → C → A
- ④ A → C → D → B

設問9 下線部hに同じ。北朝鮮の情勢の説明として明白な誤りを含むものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① ソ連が削減したため、農業生産が低迷して食糧危機に直面した。
- ② 核拡散防止条約からの離脱を宣言し、核実験を行った。
- ③ アジア通貨危機によって、金日成の経済改革は失敗した。
- ④ 2000年に南北朝鮮の首脳による会談がはじめて実現した。

II 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

各構成員が1票を投じ、多くの票を得た者を自らの集団の代表者とする。このようなことは、国レベルでも市町村レベルでも行われる。思い返せば、小学校で学級委員を選挙する際もそうであった。我々は子どもの頃から、こうした制度に馴染んできたといえる。このように、代表者を選ぶことはもちろん、集団の決定を構成員自らが行うことを、ここでは民主主義と呼んでみよう。

民主主義という視点から世界史を眺めてみると、その起源は古代ギリシアへ遡る。古代ギリシア、特にアテネでは、現代とは異なる形ではあるものの、政治的な決定を王や貴族に委ねるのではなく、市民の集議、そして多数決によって決定していた。このようなアテネ民主政は、紀元前5世紀の半ば頃に完成したとされている。また、指導者が独裁者や僧主である場合に備え、陶片追放というシステムが導入されたことは見逃せないが、あわせて、陶片追放は最終的に政争の具となってしまったことも押さえるべきであろう。

もっとも、アテネの民主政は現代と趣向が異なるものも事実である。例えば、アテネではすべての者に政治に参加する権利が与えられていたわけでは~~ない~~。また、アテネをはじめとしたギリシアにおいては、もともとは貴族が平民を支配する形がとられていたと思われるが、ペルシアとの戦争をはじめ、平民が国防を担ったために、その政治的な発言力が大きくなった、といわれる。すると、国防を担うからこそ政治に口出しできる、という関係も浮かび上がるが、現代ではこれらは完全に切り離されている。

また、世界史を眺めれば、民主主義が繁栄を約束してくれるとはいえないのも難しいところである。例えば、古代ギリシアの諸ポリスは、最終的に、ポリスを作らず主政を採用していたマケドニアによって制圧されてしまう。ギリシアにおいても、ソクラテスやプラトンが、民主政では一部の有識者による支配の方が望ましいことを主張していた。

しかし、古代ギリシアの後も、世界史に民主主義の萌芽を加え見ることが出来る。例えば、中世イタリアにおいて担<sup>つ</sup>担<sup>つ</sup>ローマ帝国の傘下に採られたことで有名なフィレンツェやヴェネツィアといった都市国家では、当初の担<sup>つ</sup>担<sup>つ</sup>の中心は貴族であったが、徐々に一般市民が力を得、独自の代表者を選出していた、といわれる。また、支配者の決定権に彼を打ち込んだという点では、13世紀のイギリスにおけるジョン王に対する抵抗にも民主主義の一面を見ることが許されようか。

設問1 下欄部①の古代ギリシアについて、最も適切な内容の文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ギリシア人は、自らのポリスに所属する者をヘレネス、他のポリスに住む者をバルバロイと呼称した。
- イ ギリシア人は、ネアポリス・マッサリア・ビザンティオンといった植民地を建設した。
- ウ ギリシア人は、デルフォイという神による神託や4年に1度開かれるオリンピアの祭典を通じて民族意識を高めた。
- エ スパルタでは、リュクルゴスの国制のもと、黄金貨幣を使用し、他国との活発な交易を行っていた。

設問2 下欄部②に関連して、アテネの代表的な指導者について、最も適切な内容の文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ソロンは、債務が払えなくなった市民を隷属して売買することを禁じた。
- イ クレステネスは、出成文化し、法による秩序の維持をはかったことで知られる。
- ウ ドラコンは、平民が政治的発言力を増したために政治的な混乱が生じているとして、部族制度を血縁に基づくものから、地縁に基づくものに改めた。
- エ 僧主であるペイストラトスは、中小農民などの平民層を削げたため、高貴された。

設問3 下欄部③に関連して、前5世紀半ばにペリクレスのもとで実現されたアテネの民主政について、最も適切な内容の文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 政治に参加する権利は、奴隷や女性には認められていなかったが、在留外人には認められていた。
- イ 都市の規模が拡大し、人口も増加していたことから、直接民主政ではなく代議制が採用されていた。
- ウ 公職者については、辞職前一部を除き、市民からの抽選によって選出された。
- エ 財産額の大小に応じて政治に参加する権利が定められた。

設問4 下欄部④に関連して、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ササン朝の時代には、ゾラスター教の経典である『アヴェスター』が編纂された。
- イ ケータラによって政権を掌握したレザー・ハーンは、パフレヴィー朝を開き、国名をペルシアからイランに改めた。
- ウ ゴージャール朝は、ロシアに敗れて締結したトルコマンチライ条約において、ロシアの治外法権を承認した。
- エ 中フアヴィー朝は、アッパース1世の治世において新たな首都とされたイスファハーンを中心に繁栄したが、バーア教徒の反乱によって滅亡した。

設問5 下欄部⑤のマケドニアがテーベ（テーバイ）とアテネの連合軍を率えた戦いを以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア イッソスの戦い
- イ イルベタの戦い
- ウ カイロネイアの戦い
- エ テルモピレー（ナルモピュイ）の戦い

設問6 下欄部⑥に関連して、古代ギリシアの文化について、最も適切な内容の文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア アテネで開催される祝祭では、アイスキュロスやエウリピデスの悲劇が上演された。
- イ パルテノン神殿は、ギリシア建築の中でも傑出とされるドーリア式によるものである。
- ウ 万物の根源を火と考えたタレスは、「万物は流転する」との言葉を残した。
- エ プラトンの弟子であるアリストテレスは、ポリスの構にたらわれない生き方を理想とする世界市民主義を唱えた。

設問7 下欄部⑦に関連して、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ゼクセン家のオットー1世は、東フランクへの民族移住の税を退け、イタリアへの遠征を行ったのち、神聖ローマ皇帝となった。
- イ ハインリヒ4世は、叙任権闘争において教皇グレゴリウス7世から破門されたが、のちに謝罪をして許され、皇帝に即位した。
- ウ フリードリヒ2世は、外交交渉によってエルサレムを回復した。
- エ ハブスブルク家のオー4世は、オスマン帝国と結び、フランス王国との戦争に臨んだ。

問題8 下線部①に関連して、中世都市について述べた次の文章のうち、最も適切なものを以下のA～Eから一つ選びなさい。

- 「都市の空気が自由にする」との言葉が示すように、従来は一定の年限を経れば都市で自由に営業をすることができるとされていた。
- A キルドによる競争の発展は、手工業者の経済的地位の安定をもたらした。
- B ミラノやフリュージュは、農業生産に依存せず鉱山開発を基盤に発展した。
- C リューベックやアウクスブルクを中心として結成されたハンザ同盟は、活発な交易により北ヨーロッパ商業圏を支配した。

問題9 下線部②について、最も適切な内容の文章を以下のA～Eから一つ選びなさい。

- A ジョン王は、第2回十字軍に参加したが、戦費調達のために重税を課したため、貴族が抵抗することになった。
- B ジョン王は、大憲章（マグナ・カルタ）に従って、聖職者・貴族・平民の代表者からなる模範議会を創出した。
- C ジョン王は、大憲章（マグナ・カルタ）を認めために、教皇インノケンティウス3世から破門された。
- D ジョン王の子であるヘンリ3世が大憲章（マグナ・カルタ）に従わなかったために、シモン・ド・モンフォールの反乱が起きた。

Ⅱ 次の文章を読み、以下の問に答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

① 数度の対外戦争を通じて成立したドイツ帝国は、プロイセン国王が皇帝を兼ねるなど、プロイセンが主導的な地位にあったが、その反面で、諸邦が独自の権限を保持する連邦体制の国家であった。また、普魯士議会は男性普通選挙制を採用しており、権威主義的性格が強い国家でありながら、広範な国民を巻き込んだ大衆政治が展開する可能性も秘めていた。

帝国宰相となったビスマルクは、国民統合を進めるために、1870年代には「文化戦争」を展開し、この政策が不調に終わると、社会主義運動に対する締め付けを強化した。しかし、こうした取り組みにもかかわらず、自身に対する反対勢力の成長を食い止めることはできなかった。

外交面では、ビスマルクはドイツの安全保障を確保するために複雑な同盟関係を築き、また、勢力圏拡大を阻む列強の対立を誘導して、ヨーロッパ国際秩序の安定をはかった。  
この時代のドイツは経済や文化が大きく発展し、大國化の道を邁進していた。1888年に皇帝に即位したヴィルヘルム2世は政治に積極的に関与したが、失策を繰り返した。その結果、ヨーロッパ各国の対立は深まり、第一次世界大戦が勃発する原因の一部が生じることとなった。

問題11 下線部①に関連して、ドイツ帝国の成立にかかわる事件や出来事が古いものから順番に並べられているのは、次の1～4の中のどれか。適切なものを一つ選びなさい。

- 1 オーストリア＝ハンガリー帝国（二重帝国）の成立 → イタリア王国の成立 → プロイセン欽定憲法の発布 → バリコミュニョンの樹立
- 2 バリコミュニョンの樹立 → イタリア王国の成立 → オーストリア＝ハンガリー帝国（二重帝国）の成立 → プロイセン欽定憲法の発布
- 3 プロイセン欽定憲法の発布 → イタリア王国の成立 → オーストリア＝ハンガリー帝国（二重帝国）の成立 → バリコミュニョンの樹立
- 4 イタリア王国の成立 → プロイセン欽定憲法の発布 → バリコミュニョンの樹立 → オーストリア＝ハンガリー帝国（二重帝国）の成立

問題12 下線部②に関連して、プロイセンについて述べた文として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 神聖ローマ帝国内のドイツ騎士団領から昇格したプロイセン公国と、帝国外のブランデンブルク選帝侯国との同盟連合によって成立した。
- 2 フリードリヒ＝ヴィルヘルム（大憲帝）は、フランスから亡命したエグノーを受け入れて、国力の増大をはかった。
- 3 フリードリヒ2世（大王）はイギリスと同様にオーストリア継承戦争に勝利し、シレジア地方を獲得した。
- 4 ナポレオンとの戦争に敗れた後、国土の全域がライン同盟に編入された。

問題13 下線部③に関連して、各国の議会制度や投票の事柄について述べた文として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 イギリスでは、第2回選挙法改正によってすべての男性労働者が選挙権を獲得したが、この時には女性には選挙権が認められなかった。
- 2 フランスのナポレオン・ボナパルトと、その甥のリュイナポレオンは、いずれも皇帝への即位に際して国民投票を行った。
- 3 ロシアでは、19世紀後半にアレクサンドル2世が大規模な改革を進め、国会（ドゥーマ）を開設したが、その権限は制限されており、選挙制度も不平等だった。
- 4 ノルウェーはウィーン会議によってスウェーデン領になったが、1848年革命の際に国民投票を行い、独立国家となった。

問題14 下線部④に関連して、この政策によって抑圧を受けた人々として適切なのは答えられないものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 バイエルンの住民
- 2 プロイセン東部の住民
- 3 カトリック教徒
- 4 自由主義者

問題15 下線部⑤に関連して、ビスマルクの外交政策について述べた文として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 フランスのチュニジア支配を支持した。
- 2 ベルリン会議を開いて、ロシアの南下政策を支持した。
- 3 オーストリアの復讐を恐れ、同盟の孤立化を試みた。
- 4 ベルリン＝コンゴ会議を開いて、イギリス支配下のコンゴ自由国の設立を認めた。

問題16 下線部⑥に関連して、ドイツ帝国で展開した文化について述べた文として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 ニューチェは人間存在それ自体に価値を見出し、宗教を肯定した。
- 2 カントは合理主義と史学唯物論を統合しようとして、観念論哲学への道を開いた。
- 3 ヨッホホらによる種質学や予時医学が、近代医学の基礎を確立した。
- 4 ヴェーバーは潜在意識に探求の領域を広げ、精神分析学を確立した。

設問7 下線部fに関連して、19世紀から20世紀に移行する時期のヨーロッパ各国の関係について述べた文として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- イ イギリスは英露露商を結んだが、その後数年、東アジアでのロシアの進出に備えて日英同盟を結んだ。
- ロ フランスはアフリカの植民地化をめぐってイギリスと衝突し、ファショダ事件が発生した。
- ハ ロシアは日露戦争に敗北すると進出方向をバルカン方面に変更し、オスマン帝国やイギリスと相争った。
- ニ イタリアはトリエステやバルカン半島といった「未採収のイタリア」をめぐってオーストリアとの対立を深め、フランスに接近した。

設問8 下線部gに関連して、第一次世界大戦について述べた文として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- イ 中立国であったスイスへとドイツが侵食したことで、イギリスは参戦を決定した。
- ロ ドイツ軍はマルヌの戦いでフランス軍に勝利し、これ以降、西部戦線では膠着戦が続くこととなった。
- ハ タンテンベルクの戦いを指揮した軍人のヒンデンブルクは、後にヴァイマル共和国の初代大統領に就任した。
- ニ 戦争中に、イギリス王家はそれまでのドイツ系の名前から、ウィンザー一家に改称した。

IV 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

14世紀の初めごろアナトリア西部におこり、後にオスマン帝国とよばれることになる国家は、周辺に君侯国を次々と併合し、またビザンツ帝国の領土を侵食しながら、アナトリアでの領土を拡大した。オスマン帝国はさらにバルカン半島にも進出したが、アンカラの戦いでモンゴル系の王朝であるティムール朝に敗北し、一時的に勢力を落とした。しかし1453年にコンスタンティノープルを陥落させると、オスマン帝国はここを首都とすると版図をさらに拡大していった。オスマン帝国の君主はスルタンを名乗ってイスラーム法に基づいた中央集権体制を整え、イスラーム世界の守護者を目指した。

17世紀以降オスマン帝国の領土拡張の勢いは衰え、力をつけたヨーロッパ諸国の間で領土は縮小に転じ、周辺諸国への宗主権も失われていった。近代化の改革が進むなかで、宗教や民族の違いを超えて帝国内部の住民を平等に扱えるオスマン主義が唱えられ、その理念が1876年のオスマン帝国憲法にも受け継がれた。 d  は露土戦争中に憲法を停止したが、20世紀初頭、青年トルコ運動で憲政が復活し、運動を主導した「統一と進歩委員会」のメンバーはバルカン戦争のうちに政権を掌握した。このころオスマン主義は次第に衰退し、トルコ人の民族主義に訴えて国民の結束強化が図られるようになった。オスマン帝国は第一次世界大戦で敗戦国となり、アンカラで開かれた大国民議会がスルタン制を廃止したことをもって帝国は崩壊した。

ムスタファ・ケマルが率いるアンカラ政府は連合国とコーザン条約を締結し、治外法権の廃止と国民自治権の回復を実現した。トルコ共和国の初代大統領となったケマルは、第一次世界大戦後に生じた国際協調の気運のなかで、国際社会の一員としてのトルコ共和国の地位を固めていった。1930年代にヴェルサイユ体制が維持すると、トルコ共和国は外交において特定の陣営に属することを避けて国の安定を優先させ、第二次世界大戦では末期まで中立を守った。大戦後のトルコ共和国は、NATOやOECDに加入するなど西側諸国との結びつきを強めた。

設問9 下線部aに関連して、ビザンツ帝国について述べた次の文章のうち、正しい内容のものを一つ選びなさい。

- イ 軍管区の長官に軍事と行政双方の権限を与えるプロノイア制が敷かれた。
- ロ マムルク朝によってシリアおよびエジプトを奪われた。
- ハ レオン3世が聖像崇拝を解禁したため、イコン（聖像）美術が盛んとなった。
- ニ アルバニア帝国との間で、領土の争奪が生じた。

設問2 下線部bに関連して、ティムール朝について述べた次の文章のうち、明白な誤りを含むものを一つ選びなさい。

- イ マムルカドを首都として、トルコ・イスラーム文化が発展した。
- ロ アフハーン国を滅ぼして、ロシア南部に領土を広げた。
- ハ 天文学を発達させ、ウルグベグクにより天文台が建設された。
- ニ ティムールの子孫が北インドに進出し、ムガル帝国の基礎を築いた。

設問3 下線部cに関連して、オスマン帝国の領土の縮小あるいは宗主権の喪失について述べた次の文章のうち、正しい内容のものを一つ選びなさい。

- イ 17世紀末、オーストリアはオスマン帝国と結んだカルロヴィツ条約でハンガリーとポーランド（ポーニア）を獲得した。
- ロ 19世紀前半、ギリシアはオスマン帝国からの独立運動において列強の支援を受け、独立を達成した。
- ハ 19世紀前半、エジプトはシリア領有をめぐって二度にわたってオスマン帝国と戦い、最終的にシリアを獲得した。
- ニ 19世紀半ば、ロシアは北極海沿岸の支配を目指してオスマン帝国と争い、クリミア半島を獲得した。

設問4  d  に入る適切な人名を次のイ～ニの中から一つ選びなさい。

- イ アブデュルハミド2世
- ロ セリム1世
- ハ マフメト2世
- ニ メフメト2世

設問5 下線部eに関連して、バルカン同盟の4か国の組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- イ ギリシア、セルビア、ブルガリア、モンテネグロ
- ロ アルバニア、ギリシア、セルビア、ルーマニア
- ハ ブルガリア、ボスニア、モンテネグロ、ルーマニア
- ニ アルバニア、セルビア、ブルガリア、ボスニア

設問6 下線部fに関連して、トルコ共和国が実施した政策にあてはまらないものを次のイ～ニの中から一つ選びなさい。

- イ カリフ制廃止
- ロ トルマン=ドクトリンの受け入れ
- ハ アラブ連盟（アラブ諸国連盟）への加盟
- ニ 文字改革

設問7 下線部gに関連して、第一次世界大戦後の国際協調について述べた次の文章のうち、明白な誤りを含むものを一つ選びなさい。

- イ アメリカの主導でワシントン会議が開かれ、日本を含む五大国間で海軍軍備制限条約が締結された。
- ロ ドーズ案によってドイツの賠償支払いの負担は軽減され、アメリカ合衆国資本がドイツに流入した。
- ハ 国際紛争解決の手段として武力行使をしないことを定めた不戦条約が、フランス外相ブリアンとアメリカ国務長官ロッドスの主導により締結された。
- ニ イギリス、フランス、イタリアなどがロカール条約に調印し、フランス軍のルール地方からの撤退とドイツの国際連盟への加盟を取り決めた。

説明 下線部に関連して、ヴェルサイユ条約の動向を示す現象について述べた次の文章のうち、正しい内容のもの一つ選びなさい。

イ イギリスやフランスがブロック経済の構築を進めたため、アメリカは複雑外交によって強権的にドル・ブロックの構築を急いだ。

ロ ナチスの一党独裁体制となったドイツは、徴兵制の復活と再軍備を宣言したのち、ザール地方に侵攻した。

ハ エチオピアへの侵攻を開始したイタリアに対し国際連盟は経済制裁を決議したが、イタリアは侵攻を続け、

エチオピアの併合を宣言するに至った。

ニ スペインではイギリスの軍事支援を受けた人民戦線政府と、ドイツとイタリアの軍事支援を受けたフランコ将軍率いる反乱軍との間で内戦が勃発した。

V ローマ帝国により迫害を受け、ディアスポラ（離散）の状況にあったユダヤ人は、第二次世界大戦後、アラブ人が居住していたパレスティナに再び自らの国家を建設する。ユダヤ人にとってこの土地のもつ意味を示しながら、第一次世界大戦中から建国宣言に至るまでの経緯を、下記の語句をすべて用いて、250字以上300字以内で説明しなさい。なお、句読点、数字は1字に替え、指定の語句には必ず下線を付しなさい。

シオニズム運動 <sup>3</sup>      パルブネア宣言 <sup>1</sup>      委任統治領 <sup>2</sup>      国際連合 <sup>4</sup>

[以下 余 白]

1914~

1915    7    委任統治  
1916    7    委任統治  
1917    10   委任統治  
1918

29/34